

社会運動と社会教育 第3回

担当：奥村旅人

第3回の趣旨

1946年に創立された京都人文学園は、教育と学問の変革を試みた教育空間であった。同学園は1930年代に反戦・反ファシズムを基調とする「文化運動」を展開した知識人たち—新村猛や久野収らと、1920年代から労働運動に参画した知識人たち—住谷悦治らとが合流したところに形成された。

第3回は、教育・学問を作り変えようとする〈教育の文脈〉と労働・文化を作り変えようとする〈運動の文脈〉がいかに重なり合い、相互に影響を及ぼし合ったのかを考察する。

そもそも社会教育とは？（再掲）

- **社会教育**…学校教育・家庭教育を除いた組織的な教育活動。
→学校教育システムの外で行われてきた教育活動とだけではない。
- **cf. 生涯教育・生涯学習**…教育を、学校に限らず、時間的にも空間的にも拡張した概念である。
- **行政社会教育vs自己教育運動**という（古びた？）対立構図
…行政社会教育が犯した大きな罪。
今回扱うのは、自己教育運動として括られる活動。

前回の話

- システムとしてある程度完結している学校教育と異なり、社会教育事業の存立基盤は教育の文脈の外部に求められる。
…学校システム外の「学校」は、多くの場合何らかの＜運動＞をその駆動力としてきた。
- 自由大学、政治大学、京都人文学園、市民大学など
…農民運動、政治運動、文化運動、市民運動など依拠する＜運動＞は多様。
だが、社会教育の豊かな空間には常に＜運動＞があったと言って良い。

前回の話

- 「労働学校」は労働運動をその駆動力にしてきた一はずである。だが、その駆動力が弱まったとき、学びの空間は無くなるか、姿を変えて存続するかしかなない。
- これらの「学校」がそれぞれに目指してきた< **対抗学問** > ○○のための学問という形で、既存の学問を規定する権力性（政治、資本、アカデミズムなど）を批判し、様々に自らの知を紡ごうとした場として、これらの「学校」を捉えると…今はどうなっているのか？

今回の題材

- 京都人文学園

…1946年10月に開校した3年制の各種学校。

「立身出世の具」に堕し、「暗記」に注力するあまり「観察と推理との力の涵養」を行わなくなった従来の学校教育のあり方を批判し、知識の一方的教授ではなく、「後進」を「先進が掖導する」ことを重視して「行動の人として思考し思考の人として行動する」人を育てようとした。

そのための具体的な実践として、試験や出席を廃止するなど、「新しい教育と学問の構築」を目指した教育機関。

- 学校教育システムの外につくられる「学校」
 - … < **教育の文脈** > : 同時代の学校教育システムに対する批判的思考、学校教育の対象拡大、あるいは高等教育機関で主に生産・伝授される「学問」の担い手の創造などといった、「教育」の変革を志向する思想
 - < **運動の文脈** > : 同時代の労働や政治、文化に対する批判的思考に基づいた労働運動・政治運動・文化運動の担い手の養成や、それに対抗する労使協調主義的な教化運動など、社会運動の要請

との交差点上に形成。

- <運動>は、必ずしも一枚岩ではない。
Ex. 労働組合を基盤とした労働運動、いわゆる無産政党を基盤とした政治運動、芸術や文学などに依る「文化運動」など、1970年代に興隆する「新しい社会運動」…
→<運動の文脈>の複雑性
- <運動>は、学校外の「学校」の駆動力であり時には衰退させる力でもある。
それ自体として存在が必要とされている学校教育システムと違い、「学校」は存立の理由や基盤を外部に置いている。
…今、そのような学びの場を創るためには？

昼間制時代

- 創立者たち
 - ① 「友山荘」に集った人々：住谷悦治を中心とした、戦前期から労働運動に参画していた知識人＝<労働運動の文脈>
 - ② 『世界文化』グループ：新村猛や久野収を中心とした、戦前期に反ファシズムを基調とした「文化運動」を行った知識人＝<文化運動の文脈>
- 『土曜日』の創刊及び京都民主戦線での出会い

昼間制時代：1946年10月-1949年3月

- 「友山荘」グループはあまり講義を行わず、＜文化運動の文脈＞に属する知識人たちが中心となって教育活動が展開
…「人文主義」的教育（→別表）
- 深刻な財政難、昼に人を集めることの困難
→夜間制への移行が模索される。

夜間制時代：1949年4月-1957年3月

- 「人文主義」教育から「勤労者」教育へ
- 『世界文化』グループの就職＝離脱
- 課目の変化
昼間制：①一般教養、②論理学・哲学系科目、③歴史学系科目、④社会学系科目、⑤経済学系科目、⑥法学系科目、⑦時事解説、⑧自然科学系科目、⑨基礎教養科目、⑩語学系科目
夜間制：④社会学系科目と⑩語学系科目の廃止
⑪社会思想系科目、⑫現代社会分析系科目、⑬労働問題系科目が追加されたことである。

同時代労働組合の教育活動

- 「総同盟、K・K・R、産別、全官公」の4組合の連合体、京都地方労働組合協議会（以下、地労協）による教育活動
1947年7月～1949年、「京都労働学校」と称する講座を開催
- 講義科目と担当者の一覧→別表2
…⑪～⑬の新設科目群の主な担当者と重なっている。
岸本英太郎、島恭彦、細野武男、高桑末秀、渡部徹
- 京都人文学園の夜間部移行に伴って生じた科目の増設
…京都の＜労働運動の文脈＞＝地労協による教育活動に参画していた知識人が、京都人文学園にも参入した

夜間制時代：1949年4月-1957年3月

- 入学者数はV字回復、だが財政難再び
- 勤労者教育協会との合併
 - …1953年10月に日本労働組合総評議会（以下、総評）の黒田誠一や島恭彦、前川嘉一、細野武男ら知識人によって設立された、「勤労者の教育活動を促進し、援助することを目的とした」団体。
 - 主な事業として、1954年7月から1956年までに8度の講座を労働者に向けて開催（別表3）。
 - 現在の京都労働学校へ

おわりに

- <運動の文脈> と <教育の文脈> の相互規定
…課目の変化
- 社会教育の駆動力としての<運動>参加者
- 財政難という永遠の課題